

コンセプト



仮説 / 仮設の森

ここに森があったなら...

高架下の未利用地に、ひと月だけ森を設置し、訪れる人の行動や感情の変化を観察・記録します。

街なかにおける緑の必要性とは？憩いの風景はどのように生まれるのか？

これは、未来の浜松街なかの公共空間を構想するための実証実験です。

あなたは森から何を受け取りますか？

ステートメント

「POP UP FOREST」は、街の真ん中にふとあらわれる小さな森”です。いつもの高架下に、少し不思議な緑の場を差し込むことで、日常の中に新しい風を運びます。

この森は「仮設/仮説の森」ともいえます。仮設だからこそ儚く、仮説だからこそ「もし浜松の街なかに森があったら？」という想像をふくらませてくれます。人工的な森ですが、その違和感は、自然と人や街との関わりを見直すきっかけになるのではないのでしょうか。

そしてこの取り組みは、単なるイベントではなく、この場所の新たな使い方を考えるための実証実験でもあります。ここで人々がどのように過ごし、どんな会話や出会いが生まれるのかを観察することで、これからの街の姿を探る手がかりにしていけます。

木の香りや土の感触に触れること、偶然に居合わせた人と視線や笑顔を交わすことここでの体験はどれも、この森が生み出す大切な風景のひとつです。1か月の間ですが、街の中に立ち上がるこの仮設/仮説の森”を楽しみ、自由に感じ、語り合ってみてください。そこから、未来の街を少し違った目で見えるヒントが生まれるかもしれません。



主に平日

居場所

主に休日

商業・飲食

- ・POPUP
- ・キッチンカー

イベント

- ・青空教室
- ・暗渠ツアー
- ・トークセッション
等



ゾーニング案



鍛冶町通り

遠鉄百貨店
新館

浜松センタービル

プレスタワー

FOREST
エリア

こどもの遊
び場

アートエリア
※文化振興財団

駐輪場
11/5~

(NO. 1+13.07)
1P. 1

(NO. 2+12.78)
1P. 2

NO. 3+3.35

(NO. 3+12.82)
1P. 3

NO. 4

NO. 5

NO. 6

NO. 6+9.85

NO. 7+0.30

NO. 7+10.00
E.P